

まちづくり拠点施設

“小清水ツーリストセンター”を整備します!



平成27年11月に策定した「小清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、小清水町が持っている“強み”と、他自治体より劣後する“弱み”を客観的に認識することで、これまでにはなかった新たな視点で「雇用の創出」「結婚、出産、子育て」「新しい人の流れ、定住促進」を実現し、人口減少に対応するための様々な施策を進めていくものです。

地方創生のキーワードとして、「金太郎飴にはならなない」という言葉があります。全国の市町村は1718の自治体があり、それに得手不得手があり、小清水町のように農業が盛んな町もあれば、工業が盛んな町もあります。これまでの市町村の発想は、どこかの市町村で温泉が人気となれば、わが町も温泉施設を建てよう…。どこかの市町村で豚丼が名物になったので、わが町も…。しかし、とても失敗している事実があります。

温泉地で有名な「草津温泉」、豚丼の「十勝」に今から勝てますか? といつお話しです。ひいかの町でやっていますから、わが町も、そして近隣市町村もどうした連鎖を続け、結果的には金太郎飴と同じくらいのまちでも同じようになり魅力を失つてしまおう。

「バードウォッチングを新たな観光資源に!…」

総合戦略の3本柱のひとつである「新しい人の流れ、定住促進」に結びつけるため、小清水町では「バードウォッチングを起爆剤とした欧州インバンド受入プロジェクト」を実施しています。これは、小清水町だけが持っている“強み”に着目した施策として実施しているもので、海拔0mのオホーツク海から小清水原生花園や濱

を両立するあたりで、このことを最大限活用することとした新たな挑戦です。この取り組みには、2つの目標があります。

一つめは、短期的な目標として、観光客の入り込み数の増加を図ること。二つめは、今すぐに結果が現れるものではありませんが、将来に向けた長期的な目標として掲げるもので、まずは、町に足を運んでわざわざ町名・場所を知つても、じい町のファンになつていただけようと、それが結果的に移住や定住へと結びつかうことを目標としています。

このよなか、昨年10月、国は、地方の実情を尊重しながら本格的な事業展開と地方創生の更なる深化を目指すこととして、戦略や計画に基づき利活用方策が明確にされ、それにより十分な地方創生の波及効果の発現が期待できるものを対象とした交付金事業（地方創生拠点整備交付金）を平成28年度に限り創設しました。

町では、これまでの他の交付金事業と比べ、財政的に有利なこの交付金制度を活用することとし、計画書を作成、国と民間事業者の経営者など外部有識者による審査を経て交付金対象事業として本年2月に採択されました。

採択された拠点施設は、道の駅はなやか小清水の東側に「小清水ツーリストセンター」として整備し、観光窓口となるビジターセンターのほか、小清水町観光協会の事務所、モンベル直営店の複合施設として平成30年度に開設予定です。

モンベル (mont-bell) との連携

昨年9月、小清水町と国内トップクラスのアウトドア用品メーカー「モンベル」がフレンドタ

ウン協定を道東で初めて結びました。この協定は、国内外に強い発信力と多くの会員数（平成29年1月末で74万人）、知名度を有する同社と連携しながら、自然環境の保全と地域経済の活性化

小清水ツーリストセンター整備

昨年9月、小清水町と国内トップクラスのアウトドア用品メーカー「モンベル」がフレンドタ

ウン協定を道東で初めて結びました。この協定は、国内外に強い発信力と多くの会員数（平成29年1月末で74万人）、知名度を有する同社と連携しながら、自然環境の保全と地域経済の活性化

道東初のモンベルタウンとなつた小清水町は、

昨年冬、モンベル会員向け情報誌「OUT

WORD 第73号」で紹介され、74万人という膨大な会員に小清水町の名前が誌面において発信されたほか、同社のWebページでも同様に周知

金太郎飴はダメ!

